

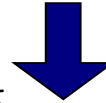
# マルチメディア紙芝居

使いかた

- ・ この紙芝居は絵と文、および朗読がついています。



- ・ 文章、または絵のの前面にある をクリックするとその文章や絵の朗読が流れます。



- ・ 次の絵、もしくは文章にいく場合には を、前にもどるときは



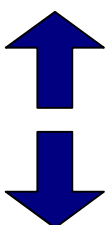
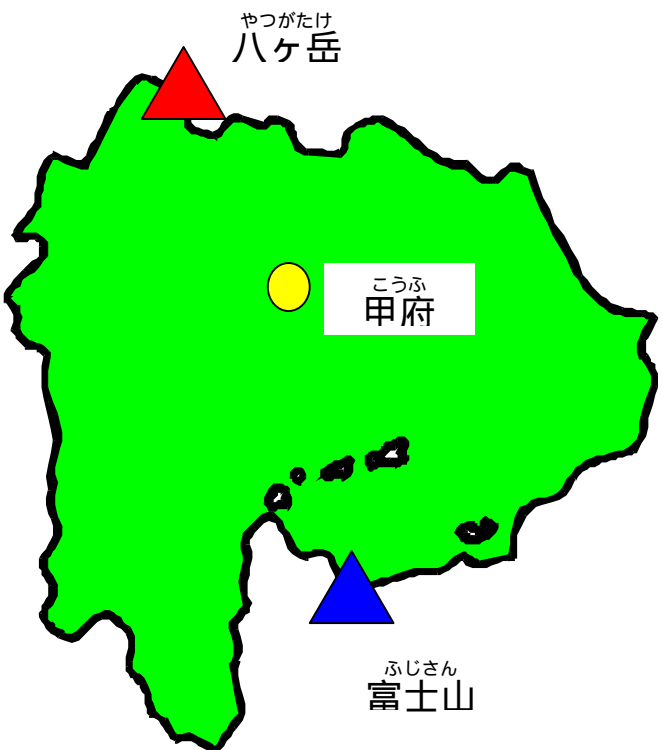
をクリックしてください。

## 富士のせくらべ

録音日： 2001年8月1日録音  
朗読者： こぶたの会 小松かおり  
録音者： 地域資料デジタル化研究会 日向良和  
録音時間： 5分8秒



みなさんは日本にほんで一番高い山をいつていますか？そう、それは  
富士山ふじさんですね。でも昔は南アルプスにある八ヶ岳やっがたけのほうが背が高か  
ったというお話です。

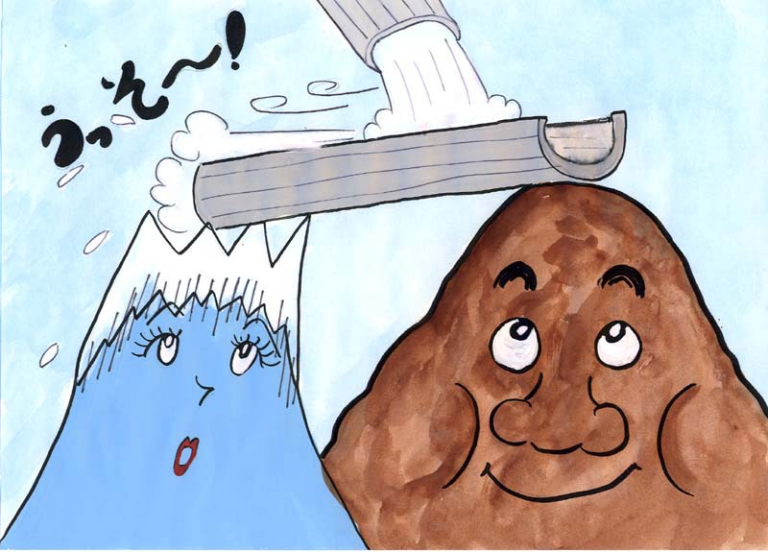


ふじの  
背くらべ















## 富士のせくらへ

むかしむかしのこと。富士山の女の神様せんげん浅間様と八ヶ岳の男の神様ごんげん権現様とが、どちらの山が日本一高いか言いあそいをしていました。

「俺のほうがおまえよりずっと高けえぞ」

と八ヶ岳の神様が言うと、気の強い富士山の神様も負けてはいません。

「何を証拠しんこにそういうでえ。いいえ、私のほうが高えさ」

二人がいくらあらずついてもきりがありません。そこで

「自分で自分のことはわからんもんだから、ほんじゃお他人さんにみてもらおう」

ということになって、木曾きむぎにある阿弥陀如来あみたにょらいのところに行って、どちらの山が日本一高いか見てくれるようたのみました。

二人の話を聞いた如来様は

「それはこまったことだなあ」

と腕くみをし、しばらくの間考え込んでから何かひらめいたように、手をポンとたたきました。

「それじゃひとつこういうことにしよう。今から俺がおまえたちの頭から頭へといをのせて水を流しこんでみる。水は正直だからな。低いほうへと流れていくに決まっている。そして水の流れていったほうが負けということになる。どうだやってみるか」

それを聞いた二人は

「ようし、水の流れていったほうが負けだな」

と、如来様の考えに大賛成。だいさんせい さうそく早速やってみようとお願ひしました。

「うーん、重いのう」

如来様はやつとの思いで、八ヶ岳の頂上ちやうじやうから富士山の頂上へどうにかといをのせました。

「よし、のつかったぞ。じゃあ今から水を流すぞ。覚悟はいいな」  
二人とも、絶対に自分のほうが高いにきまっている。とそう思っています。

「じゃあいくぞ。それー」

といに水を流し込んでみると、あれあれあれあれあれ、それはなんと富士山のほうへ流れていくではありませんか。

如来様は富士山の神様に向かって

「気の毒だがおまえのほうが低いぞ。おまえの負けだ。さあ、けんかはやめたやめた」

といいました。如来様のおかげで八ヶ岳の方が高いということがわかり、二人のけんかも一件落着。かと思われたのですが、気の強い富士山の神様は自分が負けたことが悔しくて悔しくてなりません。

そこで、隙すきをうかがい、目の前に落ちていた太い棒で八ヶ岳の頭をおもいきりがーんとたたきました。

「痛い、痛い。なにすんだ」

八ヶ岳の神様はあまりの痛さに自分の頭をさわってびっくり、あらあららら、なんときれいだった八ヶ岳の頭がごつごつになって、八個に割れてしまっているではありませんか。

それ以来この山を八ヶ岳と呼ぶようになり、また、八ヶ岳は富士山よりも割れた頭の方だけ低くなったのだということです。そして、そのときとびちった山の七つの破片は遠く駿河湾へと飛んでいき現在の伊豆七島になりました。しずこちとう時々噴火を繰り返しているのは今でも殴られた怒りが収まらずにいるからだといわれています。

おしまい。